

国際印刷大学校研究会資料  
演題 電子書籍の今後の展開

2010. 9. 27

田中崇

国際印刷大学校客員教授

ダイヤモンドグラフィック社顧問

インドトムソンプレス社東京事務所長

1 ----世界の出版業の現状と将来

1) この数年アメリカ、日本では中小の出版社、書店、印刷会社の 20%~30%が閉鎖されて出版の売り上げも大幅に減少している。

一昨年の出版世界会議、アジア太平洋デジタルマガジンコンファレンス、本年の日本出版学会総会、中国出版国際会議、東京ブックフェアでも対応が検討された。結論は、紙による出版物は将来とも点数、部数は減少しても世の中で必要とされる。それは出版物とその編集力が文化、知識の基幹をなしているからである。

ただし、その編集（内容、視覚化）、製作、媒体、配布の改革が必要である。

2) 電子書籍マーケットの現状（2009年）

アメリカ----290 億円

日本----574 億円（出版全体 2 兆円の 3%、89%はコミック、ケイタイ）

（電子辞書-400 億円含まず）

担当者

コンテンツ----出版、新聞、TV局、映画会社、著者

ハード----電機メーカー、PCメーカー(キンドル,iPad,ソニー,他 2000万台?)

編集、配送----アマゾン、DNP, 凸版、他

google は本の販売、そのまま送信中心（200万点入力済み）

電子書籍配信ファイルフォーマット----多社（標準作成研究中）

（印刷会社が弱小出版社をサポートして主体になれるか?）

2 ----出版、印刷業界の対応

アメリカ----出版社が紙、web, イベント、ショッピングなどで成功例。

アマゾンが全書籍の電子配信開始（紙の半額、日本の出版物も一部対応）

1) 総務省、文部科学省、経済産業省の対応（出版、書店、印刷、作家、通信社が参加）

「デジタルネットワーク社会における出版物利活用推進に関する懇談会」

2) 総合プラットフォーム（集約、配信、課金、決済の Web 化、国際化）

アマゾンの一人勝ち、google が対抗

DNP /TOPPAN+NTT+出版社のグループが新組織

3 ----問題点と将来対策

出版社の対応----コンテンツのクロスメディア対応が不可欠----力不足

印刷会社の対応----出版社を総合サポートする----人材不足

印刷技術の高度化、高付加価値技術の開発、拡張領域、国際化が必要。 以上

